直ぐ殼を閉ぢて或毒液を出し、其で人間を溶して腹を肥すのであるとは、如何にも恐ろしい貝である。

## 二〇〇　薔薇の傳說

昔ペッレヘムの市に、ジラアと云ふ姿も心も大層美くしい娘が居つた。

ジラアは、清い心をもつて唯一筋に神の道を踏んで居たが、不圖した事から或男に深い怨をうけた。其男は隨分悪い奴で「彼女には悪魔がついてゐる、彼女は國の宗敎を信じない背敎徒である」と、ありもせぬ事を云ひ散したので、可哀相に其爲め市の掟に從つて、火炙の刑に處せられねばならぬ事になつた。

ジラアは遂々刑場に呼出された。彼女は觀念の眼を閉ぢて從容として居た。軈て薪に火は點けられる、焔々たる猛火は將に彼女を包うとしたが、其刹那、不思議や彼女の周圍には、美くしい花が咲き亂れて、彼女の姿を包んで了つた。其花が卽ち薔薇であつた。



又黃色い薔薇があるが、其は初め白であつたが、或時雲の上で戯れて居たキューピットが、過つて神酒を零した爲に葩が濡れて、永久に黃色になつたのだと云ふ事である。

# 附錄 理化重要發明發見年表

| 發明發見 | 發明發見者 | 年代 |
|---|---|---|
| 望遠鏡發明 | リバーシエー | 西暦一六〇八年 |
| 木星衛星發見 | ガリレオ | 同 一六一〇年 |
| 顯微鏡發明 | ハンス、ザンツ | 同 一六一〇年 |
| 水銀晴雨計發明 | トリチエリー | 同 一六四三年 |
| 排氣機發明 | ゲーリツケ | 同 一六五〇年 |
| 光分散の理發明 | ニユートン | 同 一六六六年 |
| 燐發見 | ブラント | 同 一六六九年 |
| 空氣の成分發見 | メーヨー | 同 一六七〇年 |
| 子午線測定 | ピカード | 同 一六七二年 |
| 光速度測定 | ロートル | 同 一六七五年 |

| | | |
|---|---|---|
| 萬有引力發見 | ニユートン | 同　一六八七年 |
| 蒸氣機創作 | セーブリ | 同　一六九八年 |
| 蒸氣機關發明 | ニユーカムン | 同　一七〇五年 |
| 華氏寒暖計發明 | ファーレンハイト | 同　一七一七年 |
| 紡績機械發明 | ワイアット | 同　一七三〇年 |
| 列氏寒暖計發明 | レオミユル | 同　一七三一年 |
| コバルト發見 | ブランド | 同　一七三五年 |
| 攝氏寒暖計發明 | セルシウス | 同　一七三六年 |
| ライデン瓶發明 | クライト | 同　一七四五年 |
| 白金發見 | ワツトソン | 同　一七五〇年 |
| ニツケル發見 | クロンステツト | 同　一七五一年 |
| 避雷針發明 | フランクリン | 同　一七五二年 |
| 無水炭酸發見 | ブラツク | 同　一七五五年 |
| 窒素發見 | ルサフオード | 同　一七七二年 |
| 潛航艇發明 | フツシネル | 同　一七七四年 |
| 酸素發見 | プリーストレー | 同　一七七四年 |
| 鹽素發見 | シエル | 同　一七七四年 |
| マンガン發見 | ゲーン | 同　一七七四年 |
| ヲルフラム發見 | シエル | 同　一七八一年 |
| 天王星發見 | ハーシエル | 同　一七八一年 |
| 輕氣球飛揚 | モントゴルフイエ | 同　一七八三年 |
| 水素發見 | カベンヂツシユ | 同　一七八四年 |
| クローム發見 | ヴオーケリン | 同　一七九七年 |
| 石版術發明 | ゼネフエルデル | 同　一七九九年 |
| 電池發明 | ヴオルタ | 同　一八〇〇年 |
| 蒸氣自動車發明 | トレビシツク | 同　一八〇一年 |

| | | |
|---|---|---|
| タンタリウム發見 | ニックベルグ | 同 一八〇二年 |
| オスミウム發見 | テナント | 同 一八〇三年 |
| イリヂウム發見 | テナント | 同 一八〇四年 |
| 電鍍術發明 | ブルニヤトリー | 同 一八〇五年 |
| マツチ發明 | チヤンセル | 同 一八〇五年 |
| カリウム發見 | デキー | 同 一八〇七年 |
| ナトリウム發見 | デキー | 同 一八〇七年 |
| カルシウム發見 | デキー | 同 一八〇八年 |
| ストロンシウム發見 | デキー | 同 一八〇八年 |
| バリウム發見 | デキー | 同 一八〇八年 |
| 硼素發見 | ゲールサツク | 同 一八〇八年 |
| 沃素發見 | クールトア | 同 一八一二年 |
| 機關車發明 | スチブンソン | 同 一八一四年 |

| | | |
|---|---|---|
| 安全燈發明 | デキー | 同 一八一五年 |
| 電磁作用發見 | エルステツト | 同 一八一九年 |
| 熱電流發見 | ゼーベツク | 同 一八二一年 |
| 硅素發見 | ベルチエリウス | 同 一八二三年 |
| 無定位電流計發明 | ノビリ | 同 一八二五年 |
| 臭素發見 | バラート | 同 一八二六年 |
| アルミニユーム發見 | ウエーレル | 同 一八二七年 |
| マグネシウム發見 | リービツヒ | 同 一八三〇年 |
| 電信機發明 | ガフス | 同 一八三三年 |
| 燐寸發明 | インリ | 同 一八三四年 |
| ダニエル電池發明 | ダニエル | 同 一八三六年 |
| 電信機發明 | モールス | 同 一八三七年 |
| 電鑄術發明 | ヤコビ | 同 一八三八年 |

| | | |
|---|---|---|
| 寫眞術發明 | ダケール | 同　一八三九年 |
| 水壓起重機發明 | アームストロング | 同　一八三九年 |
| 赤燐發見 | シユレーテル | 同　一八四五年 |
| 綿火藥發明 | シエシエーンバイン | 同　一八四六年 |
| 海王星發見 | ガルレ | 同　一八四六年 |
| ニトログリセリン發見 | ソブレロ | 同　一八四六年 |
| 眞空放電發見 | マソン | 同　一八五三年 |
| 紙型版發明 | ヴオルター | 同　一八五六年 |
| アニリン紫發明 | バーキン | 同　一八五六年 |
| アニリン紅發明 | ナタンソン | 同　一八五六年 |
| 瓦斯エンヂン發明 | ルノア | 同　一八六〇年 |
| 電話發明 | ライス | 同　一八六二年 |
| 輪轉機發明 | ウオルター | 同　一八六二年 |
| ダイナモ發明 | ジーメンス | 同　一八六六年 |
| ダイナマイト發明 | ノベル | 同　一八六七年 |
| 鐵筋混凝土發明 | モニエー | 同　一八六七年 |
| タイプライター發明 | ショールス | 同　一八六八年 |
| 太陽熱動力機發明 | エリックスソン | 同　一八七五年 |
| 蓄音機發明 | エジソン | 同　一八七六年 |
| 炭線電燈發明 | エジソン | 同　一八七六年 |
| 交流電動機發明 | フアーラリス | 同　一八七九年 |
| 弗素發見 | モアサン | 同　一八八五年 |
| 活動寫眞發明 | エジソン | 同　一八八六年 |
| アルゴン發見 | レーレー | 同　一八九〇年 |
| ヘリウム發見 | レーレー | 同　一八九四年 |
| 無線電信發明 | マルコニー | 同　一八九五年 |

| | |
|---|---|
| 同 一八九六年 | 空氣液化器發明 |
| 同 一八九八年 | ラジウム發見 |
| 同 一九〇〇年 | タンタリウム燈發明 |
| 同 一九〇四年 | 寫眞電送法發明 |

リンテ
キユーリー
ダツテル
コルン

理科百話 終


理科百話
定價一圓七十錢

不許複製

大正十一年四月十五日印刷
大正十一年四月二十五日發行

編者 菊池武剛

發行者 東京市京橋區桶町十五番地 株式會社 大鐙閣 代表者 面家莊佶

印刷者 東京市京橋區本八丁堀四丁目五番地 古川健作

印刷所 東京市京橋區本八丁堀四丁目五番地 株式會社 共榮社印刷所

發行所 東京京橋桶町 大阪三休橋南 株式會社 大鐙閣
振替東京三三六一八 大阪二七一五五

碧瑠璃園著

## 日本神話 國びらき

造化の總てを一身に集めた美しい八上比賣と火の如き烈しき氣象の大國主尊を中心として神話は、著者の婉麗なる筆によつて神話を傳へ眞珠のやうに光つて居ります。

定價一圓五十錢
送料十二錢

森脇紫逕著

## 俳句童話

少年少女のため、趣味と教訓とに富める話題を古今の俳句から撰んだ面白い本です。この本を讀むと、知らず識らず俳句を覺え敎へをまもるやうになります。

定價一圓二十錢
送料十二錢

碧瑠璃園著

## 偉人の幼年時代

◇三つ兒の魂百までもといふことがあります。幼い時に良い種を蒔いて置かねばなりません。

◇軍人になるにも政治家になるにも實業家になるにも第一に必要なのはしつかりした魂です。

1 豐臣秀吉●木村長門守 シーザー●光明皇后
2 源義經●大石內藏助 二宮尊德●レオニダス
3 乃木大將●渡邊華山 ネルソン●春日局
4 加藤清正●吉田松陰 山中鹿之助●ナポレオン
5 西郷隆盛●熊澤蕃山 ビスマルク●乳人政岡
6 德川家康●上杉謙信 コロンブス●節婦お初
7 日本武尊●武田信玄 一休和尚●ジャンダーク
8 水戸光圀●曾我兄弟 ワシントン●靜御前

定價各八十五錢
送料各六錢

◇それには昔の優れた人の言つたこと、行つたことを研究するのが近道です。

◇此本は偉人の魂を取つて、自分の胸に植ゑつけるためにかゝれたものです。

兒童讀物研究會輯

# 理科物語叢書

1 蜂の王國
2 地球の怒
3 植物の不思議
4 白鳩號
5 海の怪物
6 日本丸
7 體內旅行
8 御空の星
9 活動天國
10 水雷太郎
11 海底旅行
12 電氣少年

定價各六十五錢
送料各六錢

◇この理科物語叢書は、お砂糖で出來た金山のやうなものです。

◇シカモ寢ころんで居ても、電車に乘つて居ても掘つてゆける金山です。

◇掘つてさへゆけばピカ〳〵と光る知識の金塊がイクラでも出ます。

◇みなさんこの面白くてタメになる本をぜひ御讀み下さい。

385
185

終